

新型コロナウイルスの感染予防に！



品番/品名	HI 771/超高濃度 残留塩素チェッカー
測定範囲	0~500ppm (mg/L)
精度@25℃	±0.03ppm ±測定値の5%
使用外部環境	0~50℃ 防水機能はなし 相対湿度95%以下(結露のないこと)
電源	単四アルカリ電池 1個
サイズ、重さ	長さ86.0×幅61.0×厚さ37.5mm 64g

測定には試薬を使用します。

塩素消毒液の利用

厚生労働省の「新型コロナウイルスに関するQ&A(一般の方向け)」や、国立感染症研究所の「新型コロナウイルス感染症に対する感染管理」では、日々の予防対策として次亜塩素酸ナトリウムを希釈した消毒液の利用も推奨しています。それらから企業や事業者の日々の予防対策としては、

不特定多数が利用・共用する場所においては0.05%(500ppm)の消毒液をペーパータオルなどに含ませ吹いた後、水拭きするかアルコールで拭く。

ということが読み取れます。

消毒用アルコール(70%)が不足する中、次亜塩素酸ナトリウム消毒液を利用するケースも増えています。

有効な塩素濃度の維持・管理

次亜塩素酸ナトリウムを希釈した消毒液を使用する場合には、

消毒液として有効な塩素濃度を維持・確認することがとっても大切です。なぜかと言うと、時間経過や保管環境で塩素が飛ぶ(抜ける)ため適切な濃度を維持しないと効果が落ちる(なくなる)、ということがあるからです。

残留塩素チェッカーでの濃度確認

ハンナの残留塩素チェッカー“HI 771”はデジタル表示で、目視で判断するタイプと違い周囲の明るさや人による差は一切ありません。色の濃さを測定器が読み取り、数値を「ぱっ」と表示しますので安心です！

<次亜塩素酸ナトリウム0.05%(500ppm)の消毒液の濃度チェック>

- ①消毒液を作る。(例：1Lの水に市販の漂白剤(塩素濃度約5%)をペットボトルのキャップに2杯)
- ②測定用ガラスセルに作った消毒液5mlと水(精製水)5mlを混ぜ、軽く混ぜる。(2倍希釈)
- ③HI 771と専用の試薬を使い測定。測定値を2倍した数値が作った消毒液の濃度(ppm)になる。
- ④消毒液の濃度が500ppm以上になれば、上記の用途で消毒液としての効果は有効。

※HI 771は500ppmが測定範囲の上限のため、それ以上の表示はできません。2倍希釈する必要はありますが、測定に使用する消毒液の量は半分(5ml)で済みます。



小型で安価、手軽に測定でき便利です！
QRコードの製品ページで測定動画もご覧いただけます。

